

黒川 道*: 日本産地衣類雑報(1)**

Syo KUROKAWA*: Notulae miscellaneae Lichenum
japonicum (1)**

(1) Notes on *Anaptychia dendritica* (Pers.) Vain. var. *japonica* M. M. Sato (クロアシゲジゲジゴケ 新称), *A. heterochroa* Vain. and *A. hypocaesia* Yasuda apud Räsänen.

A. heterochroa は *A. hypoleuca* に似ているが、裏面濃黄色で KOH+紅紫色の反応を示すゆえ、別種として取扱われてきた (Vainio¹⁾, M. M. Sato²⁾)。しかし *A. hetero-*

Tab. 1. Comparison of the length and the width of spores among 3 spp.

colour of the undersurface of thallus (species name)	specimens examined		spore	
	locality	collector (Specimen no.)	length (μ)	width (μ)
white (<i>A. dendritica</i> var. <i>japonica</i>)	Formosa	M. M. Sato (Taiwan-no. 10)	40—46	18—20
	Formosa	M. M. Sato (Taiwan-no. 10-b)	36—42	16—20
	Kyusyu	F. Fujikawa	36—45	15—18
	Prov. Kii	Y. Asahina	30—36	16—18
	Prov. Musashi	M. M. Sato	32—42	18—20
deep yellow (<i>A. heterochroa</i>)	Formosa	M. M. Sato (Taiwan-no. 43)	32—39	14—20
	Prov. Tosa	F. Fujikawa	30—35	16—18
	Java	V. Schiffner (Iter Indicum no. 2872)	30—39	14—16
	Java	V. Schiffner (Iter Indicum no. 3341)	30—34	14—15
partly yellow (<i>A. heterochroa</i> var. <i>fulvescens</i>)	Formosa	M. Ogata	36—48	18—21
	Formosa	M. M. Sato (Taiwan-no. 6)	37—46	18—21
<i>A. hypoleuca</i>			21—29	9—13

* 資源科学研究所。The Research Institute for Natural Resources, Shinjuku, Tokyo.

** 資源科学研究所業績。第 749。

¹⁾ Vainio: Bot. Mag. Tokyo **35**: 60 (1921).

²⁾ M. M. Sato: Journ. Jap. Bot. **12**: 428 (1936).

chroa の假根は黒色で、先端が屢々色素を失つて類白色になる点、および葉縁近くの假根は枝分れすることが少なく、多くは単一であるに反して、葉体中央部のものは所謂“*squarroso-ramosissimus*”である点など、*A. dendritica* の假根との類似性に富んでいる。又第1表に示したように、*A. heterochroa* の孢子の大きさは、*A. hypoleuca* の孢子より大きく、むしろ *A. dendritica* の孢子の大きさと一致し、孢子内の室(*loculus*)の形も亦 *A. dendritica* のそれと一致する。即ち、*A. heterochroa* は *A. hypoleuca* に近いものとされ、時にはその変種として取扱われてきたが、裏面の色を除いて、形態的にはむしろ *A. dendritica* との間に多くの類似性をもっている。

A. heterochroa の葉体裏面の黄色色素の含有量は個体によつて甚だしく異り、裏面の色彩に濃淡いろいろ程度のものが見られる。即ち、(1) 裏面の大部分が濃黄色のもの、(2) 裏面白色で、部分的に黄色又は淡黄色のもの、(3) 裏面全体にわたつて白色でわずかに淡黄色部を散見するもの、などがある。勿論、この色彩の相違にともなつて、KOHによる呈色反応も異り、KOHによつて、(1)は紅紫色、(2)は黄色部が紅紫色ないし紅色、淡黄色部・白色部が黄色、(3)は淡黄色部・白色部ともに黄色、の反応を示す。このことは黄色色素が少ない場合には、KOH+紅紫色の反応が弱くなり、アトラノリンのKOH+黄色の反応が顕著になることを示している。一方 *A. dendritica* の葉体裏面は白色で、KOH+黄色の反応を示す。従つて *A. heterochroa* は黄色色素の減少した種々の中間形を経て、

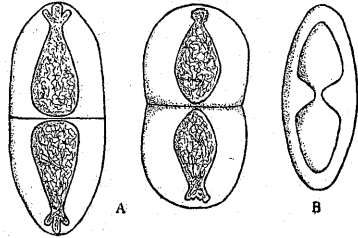


Fig. 1. Spores of *A. dendritica*. A. Two mature spores. B. A younger spore. ($\times 700$)



Fig. 2. *A. heterochroa* var. *fulvescens* M. M. Sato (M. M. Sato, Taiwan-no. 6). ($\times 1$)

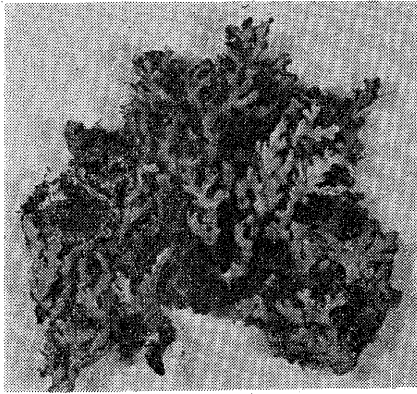


Fig. 3. *A. hypoleuca* var. *colorata* A. Zahlbr. (V. Schiffner, Iter Indicum no. 3341). (×1)

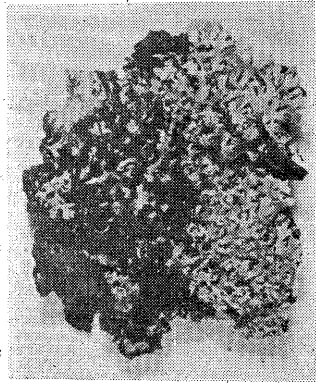


Fig. 4. Co-type of *A. hypocaesia* Yasuda ex Räsänen.

A. dendritica に連続すると考えられるので、*A. heterochroa* を *A. dendritica* の変種に移し、var. *colorata* の新組合せを作つた。猶、黄色色素含有量の少い、前記 (2) および (3) に属するものを、f. *hyposflavescens* と命名した。又、従来 *A. heterochroa* としてきたものは葉縁に粉芽をつけているが、稀に無粉芽のものに接するので、朝比奈先生所蔵、緒方正資氏台湾採集品を規準として f. *esorediosa* を設けることにした。Vainio が設定した *A. hypoleuca* var. *fulvescens* も、その記載から察するに f. *esorediosa* に属するものであろう (佐藤正己氏は、台湾 no. 6 をこれに当て、同時に *A. heterochroa* var. *fulvescens* Sato³⁾ なる組合せを作つたが、台湾 no. 6 には数ヶ所に粉芽の発生が認められるから、これは明らかに Vainio の云うものと異なる。又、佐藤氏の記載中に同標本は無子器なりとしてあるが、数個の子器を発見し、胞子の大きさを第1表に示しておいた)。V. Schiffner の採集、Iter Indicum no. 2872 および 3341 を *A. Zahlbruckner* は *A. hypoleuca* var. *colorata* と鑑定したが、これも f. *esorediosa* にほかならない。

これらとは全く別に、Räsänen は *A. hypocaesia* Yasuda (Typus Yasuda no. 674) を発表して居り、この Co-typus が東京大学植物標本室に保存されている。この Co-typus について精査すると、假根は黒色で、葉体裏面の先端近くに、わずかながら淡黄色部がある。又 Räsänen が特徴としてあげている、葉体裏面が汚灰青色に変色することは、*A. dendritica* や var. *colorata* に時々見られる現象で、さほど重要な特徴とは考えられないから *A. hypocaesia* を f. *hyposflavescens* の異名とした。

猶、裏面が白色で、葉体が全体にわたつて細裂しているものに対して f. *microphyllina* の学名を与えた。朝比奈先生所蔵、沼尻好氏、高野山採集品を規準とする。

³⁾ M. M. Sato: Journ. Jap. Bot. 12: 429 (1936).

Anaptychia dendritica (Pers.) Vain., *Étud. Lich. Brés.* **1**: 134 (1890).

var. **japonica** M. M. Sato in *Journ. Jap. Bot.* **12**: 427 (1936).

Descriptio addita: Thallus superne obscurato-cinerascens et KOH intense flavescens, subtus decorticatus, albus, sed ad centrum interdum caesius, partibus albis KOH intense flavescentibus. Rhizomata, numerosa, nigra, ad apices interdum decolorata et subalbicantia, simplices vel squarroso-ramosissima. Sporae fuscescentes, oblongo-ellipsoideae, interdum in medio constrictae, 30-48 μ longae, 14-21 μ latae.

Distr. Japonia (Hondo, Kyusyu et Shikoku) et Formosa.

f. **microphyllina** Kurokawa f. nov.

Thallus margine centroque microphyllino-dissectus.

Spec. exam. Mt. Koyasan, Prov. Kii (Leg. Y. Numaziri. Typus in Herb. Asahinae).

var. **colorata** (A. Zahlbr.) Kurokawa comb. nov.

Pseudophyscia hypoleuca var. *colorata* A. Zahlbr. in *Sitzungsber. K. Akad. Wiss. Wien, math-naturw. Classe* **111**: 413 (1902). *A. hypoleuca* var. *colorata* A. Zahlbr. in *Bot. Mag. Tokyo* **41**: 363 (1927). *A. heterochroa* Vain. in *Bot. Mag. Tokyo* **35**: 60 (1921); A. Zahlbr., *Cat. Lich.* **7**: 727 (1931) et **10**: 657 (1940), in *Fedde Repert.* **33**: 68 (1933); M. M. Sato in *Journ. Jap. Bot.* **12**: 428 (1936).

Thallus subtus ochraceus et KOH violascens, ceterum ut in typo. Distr. Japonia (Hondo, Kyusyu et Shikoku), Formosa et Hawaii.

f. **hypoflavescens** Kurokawa f. nov.

A. heterochroa var. *fulvescens* M. M. Sato in *Journ. Jap. Bot.* **12**: 429 (1936); A. Zahlbr., *Cat. Lich.* **10**: 657 (1940).

A. hypocaesia Yasuda ex Räsänen in *Journ. Jap. Bot.* **16**: 139 (1940).

Thallus subtus albus, partim fulvescens vel dilute flavescens, partibus fulvescentibus KOH violascentibus aut purpurascentibus, partibus flavescentibus et albis KOH intense flavescentibus, ad centrum versus interdum caesius, ceterum ut in var. *colorato*.

Spec. exam. Formosa: Mingetsu, Mt. Arisan (M. M. Sato Taiwan—no. 6. Ad corticem arborum, fertilis. Typus in Herb. Univ. Tokyoensis). Hondo: Hakone, Prov. Sagami (Leg. Y. Asahina, Yasuda—no. 674. Co-typus *A. hypocaesiae*); Mitumine, Prov. Musashi (Kurokawa no. 50361); Ochigawa, Prov. Musashi (Kurokawa no. 510220).

Distr. Japonia et Formosa.

f. *esorediosa* Kurokawa f. nov.

A. hypoleuca var. *fulvescens* Vain. in Philip. Journ. Sci. Bot. 8:106 (1913).

Thallus sorediis et isidiis destitutus, subtus partim fulvescens vel dilute flavescens.

Spec. exam. Formosa (Leg. M. Ogata, Ad corticem arborum, fertilis. Typus in Herb. Y. Asahinae). Japonia: Ins. Yakushima (Leg. F. Fujikawa). Java: Prov. Batavia (V. Schiffner, Iter Indicum no. 2872 et 3341). Distr. Japonia (Ins. Yakushima), Formosa, Philippina et Java.

○ユキツバキとヒメアオキ鳥取県下にも産す (林 弥栄) Yasaka HAYASHI: *Camellia rusticana* Honda and *Aucuba japonica* Thunb. var. *borealis* Miyabe et Kudo, found in Tottori Prefecture.

ユキツバキは岩手, 秋田, 山形, 宮城, 福島, 新潟, 群馬, 長野, 富山, 岐阜, 石川, 福井の諸県下に分布することは知られていたが, それより西はどこまで分布しているかよく判明しなかつた。筆者は昭和29年11月2日鳥取県東伯郡三徳林俵原地方にアスナロの天然林を調査に行つた節, 附近海拔500—600mのブナ林下などにユキツバキがチャボガヤ, ハイイヌガヤ, ヒメモチ, ハイイヌツゲ, エゾユズリハ, ヒメアオキ, などの日本海側の多雪地方に多く見られる植物と混じて沢山生えているのを発見した。これより西にも分布しているものと思われるが, 今度は別の調査目的があつたので, その分布を追いかけて見るひまがなかつたのは残念であつた。つぎにヒメアオキは北海道, 本州の奥羽, 北陸, 山陰に分布することになつてはいるが, 山陰地方の分布は明らかでなかつた。本田正次博士が鳥取市摩尻寺で生駒義博氏が採集した葉の広い型のものにヒロハノアオキ (var. *brachyphylla* Honda, 原博士が f. *brachyphylla* (Honda) Hara) と命名されたものがあるが原標本を見せて戴いたが, これはヒメアオキの広葉型のものである。また中井博士が新潟県産のものにキッコウチャボアオキ (var. *latifolia* Nakai) と名付けられているものが科学博物館の標本中にあるこれは葉がキッコウ型で広く大きなもので, 前記本田博士命名のものと同様のものである。その外中井博士がやはり新潟県下産のものにナガバチャボアオキ (f. *angustifolia* Nakai) と名付けられたものが科学博物館標本中にあるこれはヒメアオキの狭葉品である。この地には上記の両型にびつたりはまる型のものやその中間型のもが生じていた。このヒメアオキもユキツバキと同様もつと西方まで分布しているものと思われる。因に同一地に生じているチャボガヤ, ハイイヌガヤ, エゾユズリハなどはるかに西方の山口県滑山まで分布している。(農林省林業試験場)